事務事業評価シート

評価実施年度： 平成３０年度

上位の施策名称	施策Ｉ－２－１ 売れる農林水産品・加工品づくり

1.事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農産園芸課長　鳥屋尾健史	電話番号	０８５２－２２－５１２３

事務事業の名称		しまねの西条柿（あんぽ柿）もうける産地育成事業
目的	（１）対象	西条柿生産者及び生産組合、団体
	（２）意図	生柿（青果）にあんぽ柿を加えた儲かる西条柿栽培を推進し、産地の再生を図る。
事業概要		西条柿の生果出荷に加え、市場等からの需要の多いあんぽ柿の生産を拡大して生産者の所得を増大させるため、生産組合等による生産拠点施設の整備を支援する。また、安定して原料を確保するためには新規参入や担い手の規模拡大による栽培面積の確保が必要となるが、着果まで数年かかることや初期投資が大きくなることから、JA等がリース園地を整備した場合にそのリース料の軽減して借り手の経営負担を軽減する。

2.成果参考指標

成果参考指標名等			年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	主要園芸品目の契約的取引率（西条柿（あんぽ柿））	目標値	5.0	10.0	20.0	25.0	30.0	%
			取組目標値						
	式・定義	あんぽ柿の契約取引額／あんぽ柿販売額	実績値	5.0	5.5	7.6			
			達成率	100.0	55.0	38.0	－	－	%
2	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率	－	－	－	－	－	%

3.事業費

	前年度実績	今年度計画
事　業　費（b）（千円）	13,165	12,000
うち一般財源（千円）	13,165	12,000

4.改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）

5.評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

○生産者の高齢化により生産者（出荷者）や栽培管理面積が減少
　生産者（出荷者）は平成17年には683名であったが、平成29年には317名に減少し、面積も266haから148haに減少している。
○生果の生産量と販売価格が不安定で、安定した所得確保につながっていない
　隔年結果により全国的に豊凶が価格に影響し、直近５年の価格差は98円/kg（H25：342円、H29：244円）で150千円/10a/年以上の粗収入差になる。
○あんぽ柿のニーズが高く、価格も安定
　製造工程や規格が統一された「島根あんぽ」の製造が始まり、大手量販店との新たな取引により中国地方に加え、九州、四国へ販路が拡大した（H29：2,567円/kg）。しかしながら、契約的取引は「島根あんぽ」（パック販売）を主な対象としているため、当該取引額の率は伸び悩んでいる。

6.成果があったこと（改善されたこと）

○あんぽ柿の統一規格あんぽ柿の出荷
　「島根あんぽ」の商品名で規格が統一され、203,943パック（664,080個）出荷された。

○加工用原料の確保
　あんぽ柿の安定生産に必要な原料柿は109,981玉（出雲拠点へ12,100玉、浜田拠点へ97,881玉）が供給され、産地間の連携が進んだ。
＜参考　JA地区本部別供給量＞
　くにびき　　12,100玉
　雲南　　18,540玉
　石見銀山　　57,752玉
　島根おおち　　1,029玉
　西いわみ　　20,560玉

○下位等級生果の加工向けによる収入の増加
　生果出荷の規格外2L、Lの単価はそれぞれ129円、137円で、これらから資材費、運賃、市場手数料が差し引かれ、農家手取りは100円程度となる。これに対して原料仕向けは120円であり、資材費等は不要で2割程度収入が増加した。

7.まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

○安定した生果生産
　隔年結果や単価安により出荷量の年次変動が大きい。さらに樹高が高い園では未収穫果も多い。
　新技術のジョイント栽培が導入されつつあるが、西条柿では試験研究を含めて発展途上の段階にある。
○安定したあんぽ柿の製造
　隔年結果に左右されずに一定量の生産が必要である。また、生産初期の気象（特に気温）条件によっては発酵果やカビの発生もみられる。

②困っている状況が発生している「原因」

○安定した生果生産
　高齢化を背景に十分な着果管理が行われずに隔年結果を引き起こしている。品種の特性上、樹高が高くなりやすいことも未収穫となる要因の一つである。
　新技術は成園後の状況や栽培管理など不明な点も多く、手探りの状態にある。
○安定したあんぽ柿の製造
　加工向けが生果出荷の単価に影響される可能性がある（特に高単価の年）。また、気象条件に応じた製造が不十分でロスが多い。

③原因を解消するための「課題」

○安定した生果生産
　低樹高化に向けた栽培管理（ジョイント栽培）や矮性台木の試験研究が急がれる。また、品種の系統を生果出荷向けと加工向けに分けた改植の誘導と担い手への集積を進めて廃園化を防ぐ必要がある。
　このほか、新規就農や新規参入を促進するため、リース園地の整備で産地の若返りも求められる。
○安定したあんぽ柿の製造
　生産に携わる従業員の衛生管理教育と気象条件に応じて製造管理を調整できる力の習得が必要である。

8．今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

○柿経営の転換
　これまで生果主体の経営から、生果出荷→加工原料用出荷→（あんぽ柿製造）→あんぽ柿販売利益還元の経営体系に転換して生産者の所得向上を図る。
○安定した生果生産
　新技術等による栽培管理の改善は、試験研究にゆだね、得られた成果を早期に現場に普及定着させる。その一方で、高接ぎなど既存技術で対応できる内容を波及させて未収穫果を減少させて出荷量の増大を図る。
○あんぽ柿の取引量の拡大
　年80万個の製造目標を毎年達成できるよう製造ロスを減少させ、また、定量・同一品質な商品を契約的に取引することで安定した販売額を確保して生産者の収入を増大させる。